

アルミ輸入はいずれも「ケタ減」

アルミニウム合金、圧延品とも生産振るわず

橋本健一郎氏リポート②

■国際概況

十一月前半は、中国の十月自動車販売台数が減少したことに加え、米中両国による段階的な追加関税の撤廃を否定する発言をトランプ大統領が行ったことで、米中貿易協議の進展見通しに不透明感が強まるなどのマイナスマテリアルもあったが、クドロー米国家経済会議(NEC)委員長が「米中の両国は合意に近づいており、建設的な協議が行われている」と発言したことから好感しUP、十一月十五日時点で、七五六ドル(セツル)と月初価格から一三・五ドルUPの前半締めとなった。

後半はトランプ大統領が通商協議で部分合意に至らなかった場合には追加関税を引き上げる、と再度発言したことなどのマイナスマテリアルもあったが、中国人民銀行が〇・〇五%の最優遇貸出金利(LPR)の引き下げを発表したことを受け、同国の経済が刺激されるとの見方が強まり、共産党の機関紙である環球時報が、米国と中国の第一段階の合意は非常に近い、と伝えたことに加え、米国側でもオブライエン米大統領補佐官(国家安全保障問題担当)が年内に第一段階の合意に至る可能性はまだある、との認識を示したことで買い優勢で運ばれた。

十二月三日現在、後半スタート価格から二八・五ドルUPの一、七六九・五ドル。

■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート (TTS)

一〇九・八八→一一〇・五六(円)。

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、九月の自動車生産台数は前年比二・三%増の八二万八、八八九台であった。

輸出(十月)は四〇万四、八一一台で前年同月比五・二%減。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、十一月の自動車販売台数(軽除く)は前年比一四・六%減の二三万八、八四四台。

◆新設住宅着工件数推移

令和元年十月の住宅着工戸数は七万七、一三三戸で、前年同月比で七・四%減となった。また、季節調整済年率換算値では

八七・九万戸(前月比二・〇%減)となった。

◆貿易関連指標

輸出

財務省貿易統計によれば輸出はアルミ新地金が前年比二・九%減の一三二t、二次合金が四二・一%減の一、三八九t、スクラップが一〇〇・九%増の一七七、七四四t、アルミ缶が五六・八%増の二万〇、九二六t。

輸入

輸入は新地金が前年比一八・四%減の一三万九、六〇二t、二次合金が二一%減の八万八、七一八t、スクラップが七七・八%減の四五五t、合金スクラップは三五%減の二、八八一t。

■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類、押出生産合計は前年比八%減の一六万一、五二五t。

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比四・四%減の七万〇、八五九tであった。

■国内概況まとめ

【自動車】

日本自動車工業会によると、九月の自動車生産台数は前年比二・三%増の八二万八、八八九台であった。

輸出(十月)は四〇万四、八一一台で前年同月比五・二%減

【販売】

日本自動車販売協会連合会によると、十一月の自動車販売台数(軽除く)は前年比一四・六%減の二三万八、八四四台。

このうち、乗用車一四・五%減、貨物一四・六%減、バス二・二%減。

【住宅】

令和元年十月の住宅着工戸数は七万七、一三三戸で、前年同月比で七・四%減となった。また、季節調整済年率換算値では八七・九万戸(前月比二・〇%減)となった。

・住宅着工の動向については、前年同月比で四カ月連続の減少となっており、利用関係別にみると、前年同月比で分譲住宅は増、持家及び貸家は減となった。

・引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。(六面へ続く)

(四面より続く)

【アルミ圧延・押出品生産数量】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比八・八%減の一六万一、五二五tと三カ月連続マイナス。

このうち、板類は九万三、六一二tで一・七%減と三カ月連続マイナス、押出類は六万七、九一三tで四・五%減と二カ月ぶりマイナス。

【アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績】

生産は前年比四・四%減の七万八五九tと、一〇カ月連続マイナス。
出荷は七・五%減の七万〇、八三三tと四カ月ぶりマイナス。

【輸出】

アルミ新地金が前年比二・九%減の二二二t、二次合金が四二・一%減の一、三八九t、スクラップが一〇〇・九%増の二万七、七四四t、アルミ缶が五六・八%増の二万〇、九二六t。

【輸入】

アルミ新地金が前年比一八・四%減の一三万九、六〇二t、二次合金が二二%減の八万八、七一八t、スクラップが七七・八%減の四五五t、合金スクラップが三五%減の二、八八一t。

【見通し】

・自動車は生産が二・三%増。国内販売台数が前年比一四・六%減。生産は小幅増だが、販売は大幅調整が入り来月も減少か？。

・日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比八・八%減の一六万一、五二五t。

七月に一九カ月ぶりプラスになったが、三カ月連続マイナスに反転。今後更にマイナスが続くかの動向に注視。

アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は前年比四・四%減の七万〇、八五九tと一〇カ月連続マイナス。出荷は七・五%減の七万〇、八三三tと四カ月ぶりのマイナス。今後マイナスが続くかの動向に注視。

・アルミ輸出は内需低迷やアルミ缶輸出の大幅増を受けて二〇一〇年以来最大量。

・アルミ輸入は内需低迷から全品種減少。

【スクラップ景況予想】

流通在庫はLME価格の安定や年末要因か

らでてくるのではないか。

需要面に関しては足元の生産状況が悪化していること、更に安い輸入塊が入ってきていることや米中貿易戦争から不透明感が強く、メーカーの購入意欲は低く、スクラップ販売は当面厳しい。

【LME・為替予想】

今月は米中貿易戦争の動向、及び「香港人権・民主主義法案」の署名に関する対抗措置に左右される。

米中貿易に関しては中国経済もかなり傷んできており、諸々問題はあるものの、第一弾の合意をするのではないかと？

香港署名の対抗措置に関しては目新しさがなく、本気度も低いのでは？

これらを踏まえた十二月のアルミ価格は一、七〇〇～一、八〇〇ドル。

スクラップ購買価格に関しては、横バイから五円安程度と予測している。

第二九回 つくば奨励賞を受賞

材料研究機構とともにフジクラ

フジクラ(伊藤雅彦社長)は、「レーザー加工機用の優れたフアラデー回転子の開発と実用化」において、同社開発グループの船木秋晴氏が国立研究開発法人物質・材料研究機構の島村清史氏、ガルシア・ビジョラ氏と共に、ノーベル物理学賞受賞者の江崎玲於奈氏が委員長を務める茨城県科学技術振興財団から「第二九回つくば奨励賞(実用化研究部門)」を受賞した、と発表した。

同賞は、顕著な研究成果を収め、その研究成果が実用化される等、科学技術振興に寄与した研究者に授与されるもの。受賞対象となったフアラデー回転子は、TSLAG(Tb3Sc2-xLuxAl3O12)と呼ばれる新たな結晶を用いており、従来品と比べ優れた光学特性を示し、レーザーの高出力化を可能にする特長がある。

同結晶は同社と物質・材料研究機構が、基礎研究の開始からわずか五年という短期間で事業化し、パルスファイバレーザー加工機に使用される光アイソレータに搭載されている。

◇ KLT M ずす相場

五日 一六・八五〇 米ドル
一七 トン